

平成27年8月10日

風は東から *To be continued...*

選手権一次予選まで一週間！！
大会に向けてラストスパート！！

昨年より、「走って、走れた」菅平合宿が無事に終了！！

選手権予選に向けてファイナルステージへラストスパート！！

7月21日～25日、今年も四泊五日で長野県上田市菅平高原にて、サッカー部の夏季合宿が行われました。菅平高原は、日中日差しが強いものの朝晩は涼しく、暑い東京と比較しても快適なところです。標高が高いため、心肺機能を鍛えるには最適な場所で、**ダボスの丘**（標高 1300～1500 mで冬はスキー場のゲレンデです）と呼ばれる場所は、サッカー部に限らず多くのクラブが厳しい走りや追い込みで訪れるトレーニングの場です。今や菅平高原は、ラグビーだけではなく多くのスポーツの夏合宿のメッカとなっています。

今年も菅平合宿の名所である「**ダボスの丘**」に二回登りました。昨年は現二年生だけがこの厳しい走りを体験しましたが、今年度はチーム全員**70**名が同じメニューを無事に走りきりました。それでも、**ダボスの丘**に登ってくると、もっともっと走っている学校もあります。あるサッカー強豪校の中には、ボールを持ってこないでひたすらダボスを走る「**走り合宿**」や、日帰りで三日間走りに来ているチームもありました。こういう他校の頑張る姿を見て、子どもたちの中にも**心に火が点く**こともあります。まだまだ、上には上のチームがいますが、東高サッカー部も今年の合宿での走りでは、強豪校同様当たり前のように厳しく追い込み、子どもたちはフィジカル面だけではなくメンタル面も鍛えられ逞しく成長できたと思っています。昨年より遙かに走る量も増えましたが、それでも最後まで走りきれたことは大きな自信に繋がると思います。厳しいトレーニングをやりきった後の子どもたちの写真を見れば一目瞭然ですね！



<合宿恒例のダボスでの走りが、子どもたちの成長のバロメーター！！>

合宿という非日常生活が、「少年」を少しずつ「大人」にする！！

合宿やキャンプなど、日常生活から距離を置いた環境や離れた場所で集団生活をするのは、子どもたちを成長させる上で大きな効果があると感じています。それでも、今の子どもたちは小さい頃からサッカーの合宿など経験があるので、言われたことはしっかりやれます。こちらの要望に上手く立ち居振る舞える子どもたちも増えました。これも大切な能力ですが、もっとできることもあるように感じています。こちらから与えたことだけではなく、自ら仕事を探して行動する。つまり「気づき」の部分育てていきたいと思っています。

上級生にとっては何度も経験している合宿や遠征で、こういう生活に慣れてきましたが、一年生にとっては高校での初合宿。早朝六時から一年生同士のTRM（久留米西高校）や紅白戦を行い、午前と午後のTRの最初と最後にはラントレニング、夜は洗濯とミーティング後のノート書き。サッカーに専念するだけではなく、集団生活の中で雑用（食事の準備・片付け、洗濯、宿舎、風呂の掃除等）をすること⇒お母さんいつもありがとう！！）を始め、日常の仕事以外の役割が与えられます。ミーティングでも話しましたが、「仕事とは、自分で見つけること以外に自分の力にはならない。そして、その仕事を誰もできないくらい徹底してできるようになること。」

東高サッカー部全体に言えることですが、指示したことについてはやれます。しかし、こちらの指示で動いている限り、一人前の男にはなれません。ましてや、あわよくば楽をしたいと言う輩は、残念ながら先が見えています。二年間指導してきて、そういうものもいるのも事実です。私たち大人はそれがよく見えています。子どもたちには、一緒にいる仲間や他人のために、進んで働ける男に、そんな雄々しい大人に成長して欲しいとスタッフ一同願っています。

また、合宿中は、家庭での快適な生活のように、マイペースで時間を過ごすことができず、先生方やコーチ、上級生や仲間さらに宿舎の人に対しても色々と気を使って生活をしなければなりません。厳しいTRで疲れの溜まった極限(?)の状況だからこそ、その端々に子どもたちの真の姿が垣間見られます。普段、どのような日常生活を送り、家庭での躰がどこまで浸透しているのかも同様です。日頃から子どもたちには、「生活の全てがグランドに出る。誰もが平等に与えられた一日24時間をどのようにデザインして生活するかが大切である。」と話しています。日常生活の瞬間、瞬間こそが全てであり、大切なことを吹っ飛ばして手に入れられることはありません。与えられた時間を最大限に活かし、最大の努力することに価値があるのです。

一方通行 ⇒ のデジタル時代を、主体性を持って生き抜くためには・・・

現在は、当たり前のようにSNSが多用され、便利なデジタル時代となりました。しかし、情報は一歩通行でありその量は莫大で、その中から正しいものを取捨選択する能力が求められていきます。果たして、子どもたちはそんな時代を主体的に強く生き抜くことができるのでしょうか？

合宿や学校行事のような集団生活（行動）を何度も経験する中で、子どもたちのコミュニケーションスキルを高め、お互いに考えていることや感じていることを伝え合うことが、成長過程に必要不可欠となります。人はひとりでは生きていけません。多くの人は必ず誰かと関わりながら生きていくのです。その力を養っていくためには、合宿のような集団生活は特に必要です。

東高サッカー部の夏合宿は、五日間という短い時間ではありますが、多少(?)理不尽さも共存する非日常生活こそが、子どもたちを「少年」から「大人」へ成長させる貴重な体験になっていると信じています。

さて、合宿後の子どもたちは、少しは成長し逞しくなったでしょうか？

強豪校にも負けない、スタッフの充実度が東高サッカー部の生命線！！

周知の通り、東高サッカー部には、三名の本校教員以外に、日頃から五名の外部指導員（スタッフ）がサッカー部のサポートをしてくれています（五月からは、強力なボランティアスタッフが一名増えました）。このスタッフの数は、サッカー強豪校にも勝る**充実度**であり、東高サッカー部の**生命線**となっているといっても過言ではありません。もちろん、現在の指導体制は、サッカー部保護者会のバックアップなしでは成り立ちません。感謝しています！

スタッフは全て本業を持ち、仕事の関係もあり日替わりで東高に指導に訪れています。スタッフが、なかなか一堂に会することはありませんが、東高サッカー部の指導理念や方針、子どもたちの様子(けがの状況や学校生活)について、私と頻繁にコミュニケーションは取れているので、コンセンサスは確認できています。スタッフも指導経験豊富なものばかりなので、こちらの要望も理解した上で指導に当たっています。

今年の合宿に於いても、本業が多忙にも関わらず（ご家庭や指導チームのある方も含め）、東高サッカー部の子どもたちのために時間調整をして、多くのスタッフが、遠路遙々菅平に駆けつけてくれました。心から感謝しています！！

子どもたちにとっては、グラウンド上で指導を受け上達することが第一目的であり、その結果選手権のメンバーに入り勝利することが目標となります。しかし、私は、結果を出すことはもちろん大切なのですが、今回のように多くの大人との関わり合いを通して、子どもたちが成長していく上で必要なアドバイスやヒントを得られることの方が大切ではないかと感じています。夜のミーティングでスタッフが子どもたちに語ってくれた貴重な話の数々は、きっと子どもたちの心に響いていることと思います。常に、**チャレンジャー精神**と**向上心**を持って、これからも取り組んで欲しいと思います。





<妥協せずに、全てやりきった夏合宿！！この笑顔を次は選手権で！！>

<After the Game>

いよいよ、**選手権一次予選**（8月16日～）まで一週間を切りました。前回の通信は、合宿直前であり、厳しい菅平合宿や選手権までの時間をどのように過ごしていくのかについて書きました。あれから一ヶ月が経ちます。時間の経つのは本当に早いものです。

上記にもあるように、今年の夏合宿では、多くのスタッフが選手権に向けての心構えや自らの経験談、強豪校のメンタリティなど多岐にわたって子どもたちに話をさせていただきました。きっと子どもたちの**心にも火が灯った**ことでしょう。選手権一次予選に向けて楽しみです！！

今年のチームは、**新人戦**、**インターハイ**、**地区トップリグ**と肝心なところで力を出し切れず、結果に繋がっていません。しかし、合宿明けに行われた地区トップリグ**VSトリプレッタ**では、その成果が見られ、**4-1**と快勝しました。この勢いのまま選手権に向けて、チーム一丸となって準備を進めていきます。引き続き、サッカー部へ応援とサポート宜しく願いいたします。

尚、菅平合宿の写真が学校の**HP**に**アップ**されていますので、是非ご覧ください！合宿の様子が手に取るようにわかると思います。